

1 研究主題

成長を自覚し、主体的に学ぶ子供を育成する授業
～ルーブリックの共有とタブレット端末活用による指導と評価の一体化の研究～

当校では、「成長の自覚」は、以前から重点目標となっている。さらに、昨年度から、指導と評価の一体化を目指してきたが、評価が指導に十分生かされているとは、まだ言えない。また、新学習指導要領に基づく学習評価では、子供自らが主体的に「学習を振り返ってよりよく問題解決をしようとしている」かどうか、そして、「問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている」かどうかが大切になる。しかし、子供が自分の学習状況を振り返って学びに生かし、成就感をもって受け止めるまでには至らなかった。さらに、タブレット端末の利活用については、教師も子供も始めたばかりで、まだ不慣れである。

以上の状況を改善する目的から、本研究主題を設定した。

2 目指す子供像

ルーブリックを教師と共有し、めあてをもって主体的に学び、成長を自覚する子供

3 研究仮説

教師が単元で身に付けさせたい資質・能力に合ったルーブリックを作成して子供と共有し、子供がめあてをもって主体的に学べるような単元構成やタブレット端末を用いた評価（振り返り）を工夫することで、子供がめあてをもって主体的に学び、成長を自覚することができる。

4 研究内容

- (1) 単元で身に付けさせたい資質・能力に合ったルーブリック
- (2) 子供がめあてをもって主体的に学ぶための単元構成と評価計画
- (3) タブレット端末の利活用
- (4) 授業での教師の働き掛け

5 研究方法

- ・一人一回研究授業を行い、授業や単元での子供の姿から手立ての有効性について検証する。
- ・外部講師を招聘した研修会、先進校への視察による職員研修を行う。

6 実践の実際

(1) 単元で身に付けさせたい資質・能力に合ったルーブリック

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を基に、単元で身に付けさせたい資質・能力と単元の評価規準を作成した。そこから本時で扱うルーブリックを作成した。ルーブリックは子供に分かる表現になるように作成した。

今年度の研究授業で提示されたルーブリックは、次の通りである。

授業日 授業者	学年 教科 単元名 本時のねらい	ルーブリック (判断基準)		
		レベル3	レベル2	レベル1
(ア) 8/31 長谷川	3年 国語 「おれとはね」 「折れ」と「はね」の筆使いを理解して書くことができる。(知技)	レベル2 ①②のどちらもできている。	①「折れ」横画から一度止めて、筆を回さずに書くことができている。 ②「はね」力を抜きながら、左上へ書くことができている。 ①か②ができている。	横画・縦画について、穂先の向きに気を付けて筆をトンと置いてから書き始めていない。書き終わりを止めていない。
(イ) 9/7 二野	1年 生活 「あさがおともだち」 あさがおに親しみをもち、大切にすることについて、夏休みの世話やあさがおの開花の様子の写真をグループで見合うことを通して、開花の喜びや世話の頑張りを共有し、もっとあさがおと友達になる方法を考え、世話のめあてをもつことができる。(主)	あさがおとともに友達になっていて、あさがおの様子に合った世話を続けている。	あさがおと友達になっていて、あさがおの様子に合った世話をしている。	あさがおと友達になっていなくて、世話をあまりしない。
(ウ) 10/20 古屋	2年 国語 「そうだんにのってください」 お悩み相談会で話し合いを進めることについて、グループ内で練習したり録音した自分たちの話し合いの様子を聞いたりする活動を通して、こつをつかみ3分間の話し合いをすることができる。(思判表)	質問をしてから、アドバイスや自分の考えを話すことができた。	質問をすることができた。 友達の質問を聞いて、アドバイスや自分の考えを話すことができた。	質問やアドバイスはできなかったけれど、うなずきながら話をきくことができた。
(エ) 11/4 西潟	1年 国語 「ともだちのこと、しらせよう」 友達の一番楽しいことを紹介することについて、2つのインタビュー映像の比較から、詳しく質問するにはどうしたらよいかを考えることを通して、友達にどんな、どうして、いつなどを使って質問をすることができる。 (思判表)	ペアの友達に2つより多く、詳しく質問をすることができる。	ペアの友達に1つ、詳しく質問することができる。	ペアの友達に1つも詳しく質問することができない。

(オ) 11/15 鈴木	4年 算数 「面積 ～算数の刃 面積列車編～」 複合図形の面積を求めることについて、これまでに学習した内容を確認することを通して、長方形を見付ければよいことに気づき、必要な辺の長さを調べ、求め方を説明することができる。(思判表)	面積の求め方を、2つ以上の方法で、考えを書いたり、説明したりすることができる。	面積の求め方を1つの方法で書いたり、説明したりすることができる。	友達の考えを聞いて、面積の求め方が分かる。
(カ) 11/30 平出	6年 体育 「6年間の成果を発表しよう ～マット編～」 補助倒立回転について、解決のための方法や活動の場を選択したり、撮影した動画から自他の課題を把握したりすることを通して、壁のぼり倒立からの倒立前転をすることができる。(知技)	壁のぼり倒立から、あごを引いて背中の方に倒れ込み、安全に壁のぼり倒立からの前転ができる。	壁のぼり倒立の姿勢から、補助をしてもらって、あごを引いて背中の方へ倒れ込み、前転ができる。	補助をしてもらって、ろく木や手押し車から倒立前転をしている。
(キ) 12/9 増井	5年 国語 「事実と感想、意見を区別して、説得力のある提案をしよう」 提案スピーチのリハーサルについて、スピーチモデルの話し方のよさについて話し合ったり、互いのスピーチを聞き合ったりする活動を通して、事実と感想、意見を区別した説得力のある提案スピーチを考えることができる。(思判表)	事実と感想、意見の違いを明確にして、分かりやすくスピーチをしている。	事実と感想、意見の違いを明確にして、スピーチをしている	事実と感想、意見の違いを明確にするスピーチが分かった。
(ク) 12/15 石川 伊藤	特別支援学級 生活単元 「サツマイモがとれたよ」 プレゼント用のサツマイモ袋を作ることについて、どんなイモの組み合わせにすればよいのかの話合い活動を通して、見当をつけながらちようどよいイモの重さにするにはどうしたらよいか分かり、大体同じ重さになるように分けることができる。(知技)(思判表)(主)	見当をつける(思判表)		
		自分だけでできた	手伝ってもらってできた	やろうとした
		正しくはかる(知技)		
		自分だけでできた	手伝ってもらってできた	やろうとした
		ゆずる&進んで(主)		
ゆずり合って&進んで	進んで	はかった	はかった	

- 今年度は、国語の話す聞く、書く、体育といった実技や技能系のルーブリックを提示した実践が多かった。

- ・ 研究授業(ウ)以降は、レベル1に「～できない」といった表現をするのを避け、C評価であっても「～できる」という表現を使うようにした。
- ・ 研究授業(ア)(イ)(ウ)(オ)(カ)(キ)(ク)では、単元または小単元を通したルーブリックを用いた。研究授業(エ)は、本時のみのルーブリックである。

(2) 子供がめあてをもって主体的に学ぶ単元構成と評価の工夫

① 単元または小単元の初めにルーブリックを提示し、目標を設定する

【研究授業(ア)(ウ)(オ)(カ)(キ)】

単元または小単元の初めにルーブリックを提示した結果、単元のゴールイメージをもつことができた。また、途中でレベルが上がってきたことを認識することができ、成長を自覚することができた。

研究授業(ア)では、単元の初めにルーブリックを提示し、本時の作品から課題を見付けて、次時のめあてとした。

研究授業(ウ)では、小単元ごとにルーブリックを提示して自己評価させた。ルーブリックを提示することで自分の話の仕方の足りない部分に気付いて次時のめあてを定めるといった学習の調整ができ、ゴールに向かって学習に取り組む姿が多く見られた。

研究授業(オ)では、単元の初めに単元全体のルーブリック(算数の刃カード)を提示し、学習の進め方とゴールイメージをもたせた。授業ごとにポイントが貯まる方式をとり、さらに、内容のまとめごとにルーブリックを提示して一度に複数ポイントが貯まるようにした。子供はポイントが貯まることが喜びとなり、高いレベルを目指して取り組んだため、学習意欲が高まった。

研究授業(カ)では、単元の初めにルーブリックを設定した。単元が進むにつれて、補助や動画撮影で気付いたことを交流したり、ルーブリックで自分の姿を振り返ったりして技の習得を目指していた。

研究授業(キ)では、「スピーチコンテストをしよう」というめあてをもち、コンテストの採点基準としてルーブリックを設定した。単元のゴールが明確になり、単元を通して意欲的に学習することができた。スピーチコンテスト本番では、クラス全員が審査員となるため、ルーブリックを自己評価だけでなく、相互評価や教師の評価にも活用することができた。



② 資料を基に身に付けさせたい事柄に気付かせ、ルーブリックを作成する

【研究授業(エ)(カ)(キ)】

教師が一方的にルーブリックを提示するのではなく、教材提示によって身に付けさせたい事柄に気付かせ、子供と共にルーブリックを作成、整理した。

研究授業(エ)では、教師が作成した動画2つを比較させ、相手にどんな質問をすれば詳しく聞けるかを考えさせた。考え出した質問を使う数を基準としてルーブリックを設定した。

研究授業(カ)では、インターネット上にある動画視聴、技のポイント確認をした後、ルーブリックを作成した。

研究授業(キ)は単元導入で聞いたスピーチの原稿から、話に取り入れたい事柄に気付かせて、

ループリックを作成した。具体的で明確なめあてになり、次の活動に取り入れる姿が見られた。

③ 前時の学習の自己評価から身に付けさせたい事柄に気付かせ、ループリックを作成する

【研究授業(ウ)】

研究授業(ウ)は、前時でうまくいかなかったことや見つけた話合いの技について全体交流し、お悩み相談に取り入れたい質問の技を洗い出した。そこからループリックを作成した。前時の成果と課題を本時で生かすことができた。

④ 内容のまとめりごとにゴールイメージが更新する【研究授業(イ)】

研究授業(イ)は、主体的に学習に取り組む態度にかかわるループリックを作成した。ループリックで自己評価することへの意識が高まったと授業者が見取った段階で、ループリックを提示した。単元が進むにつれて、ループリックの文は変わらなくても、それらが示す具体の姿は更新されていくという考えの基で作成された。単元の初めではなく、あさがおへの愛着が増した夏休み後、学校での世話が始まるときにループリックを提示し、あさがおともっと友達になるための世話を考えた。

⑤ 3観点で単元の学習活動に合わせたループリックを設定する【研究授業(ク)】

研究授業(ク)では、サツマイモをプレゼントするというゴールに向けて、収穫したサツマイモの重さを量る、サツマイモを組み合わせて決められた重さのサツマイモ袋をつくる、プレゼントに添える手紙を書くといった学習活動を行った。それぞれの学習活動に合わせて、3観点でループリックを設定した。複数の観点で繰り返し評価することで、それぞれの観点への子供の意識が高まった。

⑥ 子供の実態に合わせた基準設定とキーワードによるループリックの提示【研究授業(ク)】

研究授業(ク)では、特別支援学級の子供の実態に合わせて基準を設定し、全ての子供が学びに向かうようにした。また、キーワードでループリックを提示することで、子供が分かりやすく、覚えやすくなった。⑤で3観点評価を行う上でも、⑥は有効だった。

(3) タブレット端末の利活用

授業日 授業者	学年 教科 単元名	子供の利活用		授業者の利活用	
		場面や用途	アプリ等	場面や用途	アプリ等
(ア) 8/31 長谷川	3年 国語 「おれとはね」	教科書のQRコードを読み取って、筆運びの動画を観る。 作品の写真を撮って提出する。	カメラ カメラ、ロイロノート	教科書のQRコードを読み取り、筆運びの動画を提示する。	カメラ
(イ) 9/7 二野	1年 生活 「あさがおとともだち」	あさがおの写真を友達に見せる。	ロイロノート	あさがおの写真を提示する。	ロイロノート
(ウ)	2年 国語	会話を録音して聞	ロイロノー	子供の録音を集約	ロイロノー

10/20 古屋	「そうだんにのっ てください」	き直す。提出する。	ト	する。	ト
(エ) 11/4 西潟	1年 国語 「ともだちのこ と、しらせよう」	(次時に自分の会 話動画を見ながら作 文を書く)	(エアドロ ップ)	授業者作成の会話 動画を2種提示す る。 子供の会話をビデ オ撮影する。	動画再生 カメラ
(オ) 11/15 鈴木	4年 算数 「面積～算数の刃 面積列車編～」	面積の求め方をか く。かいたものを提 示しながら説明す る。提出する。	ロイロノー ト カメラ	子供がつくったカ ードを提示する。 面積を求める図形 カードを配布する。	ロイロノー ト
(カ) 11/30 平出	6年 体育 「6年間の成果を 発表しよう～マ ット編～」	試技動画を視聴す る。 動画撮影し、技が できたか確認する。 振り返りカードを 記入、提出する。	ロイロノー ト	試技動画、イラス ト、マットの並べ方 を示す図を提示す る。 振り返りカードを 配布、集約する。	ロイロノー ト YouTube
(キ) 12/9 増井	5年 国語 「事実と感想、意 見を区別して、説 得力のある提案を しよう」	前時までに作った プレゼン資料を見な がらスピーチする。 スピーチを録音、 相互評価、提出する。 カードを基に振り 返りを記述し、提出 する。	ロイロノー ト	録音を集約する。 振り返りの視点カ ードを配布する。	ロイロノー ト
(ク) 12/15 石川 伊藤	特別支援学級 生活単元 「サツマイモがと れたよ」	ワークシート、振 り返りカードに記 入、提出する。	ロイロノー ト	ワークシート、振 り返りカードを配 布、集約する。	ロイロノー ト

① 作品の写真を子供が撮り、自分の学習状況を振り返ったり、授業者に提出して授業者が評価材料にしたりする【研究授業(ア)】

研究授業(ア)では、授業の終末に毛筆で書いた作品の写真を撮って自分のタブレット端末に保存したり、授業者に送ったりしている。本時のように次時のめあての作成に役立てたり、以前の作品と比較して成長を感じたりしている。書道用具を広げると教室内の通路が狭くて通りにくくなる。ロイロノートを使えば、その狭い通路を通して提出しに行かなくても済む。教師にとっても保存が楽で、評価もしやすい。

② タブレット端末で録音や動画撮影し、再生することで自己評価・相互評価し、次の活動に活かしたり、成長を実感したりする【研究授業(ウ)(カ)(キ)】

研究授業(ウ)では、ロイロノートの録音機能を使ってグループの話合いの様子を録音した。3人1組で行うことで音声をよく聞き取ることができた。自分たちの話合いの様子を客観的に聴くことで、話し合いに必要な要素をメタ認知することができ、有効であった。録音のために使うシートをあらかじめ準備しておくことで、スムーズに活動に入ることができた。

研究授業(カ)では、運動している様子を互いに撮影させることで、自分の動きを客観的に見ることができた。一時停止やスローで何度も見直ししながら自分の課題に気づき、技の習得に活かそうとする姿が見られた。

研究授業(キ)では、各自のタブレット端末に録音しながらスピーチ練習に取り組ませた。1回目の録音で、うまくスピーチができないことが予想されたが、間違えても最後まで録音することを確認したことで、全員が時間内に録音し、ペアで聴き合い、自分の課題に気付くことができた。ロイロノートの録音機能を用いて、時間設定をして録音したことも、操作が煩雑にならずによかった。

③ 夏休み中の家庭での学びの様子をタブレット端末で撮影し、学校で共有する【研究授業(イ)】

研究授業(イ)では、夏休み中のあさがおや世話の様子は、手書きのカードにも絵と文で記録してあった。本時では、説明で使うものは、タブレット端末の写真でもカードでもよいと伝えたが、全員が写真を使った。写真を拡大して見せたり、友達の写真に対する説明以外に自分で気付いたことを相手に伝えたりする姿が見られた。カードと比較すると、写真の情報量が多いこと、様子をきれいに正確に保存されていることが写真の利用を進めたと考える。

④ 図をタブレット端末で描く【研究授業(オ)】

研究授業(オ)では、複合図形をロイロノートのカードにして配布し、タブレット端末上で書き込みをさせた。紙のカードも用意してあったが、2名以外がタブレット端末を利用した。紙のカードへの書き込みと比較すると、書く・消すが楽で、チャレンジがしやすかった。また、複製が容易にでき、多くの子供が自分でカードを増やして使っていた。



⑤ 子供の考えを授業者のタブレット端末に集約し、共有、比較して考えを深める【研究授業(オ)】

研究授業(オ)では、複合図形の求積方法を書き込んだカードを、教師の用意した提出箱に提出させた。全体交流では、提出されたカードから共有させたいものを選んで子供に画面配信したり、大型テレビに映して説明したりした。子供のタブレット端末をミラリングして、自席からの端末操作で説明できるようにした。教室内を移動したり、子供同士が顔を近づけたりすることなくテレビや自分の端末を見て友達の求積方法を確認することができた。

⑥ 個々のタブレット端末で動画や図を見ることで、技のコツや取り組むことを確認する【研究授業(ア)(カ)】

研究授業(ア)では、教科書のQRコードを個々の端末で読み取り、筆使いの動画を視聴した。いつでも再生してよいことにしてあったので、必要な時に再生しながら学習を進めていた。

研究授業(カ)では、本時の主運動である倒立前転の試技動画を個々の端末で視聴した。一時停止やスローで再生することができたため、子供にポイントを強く意識付けることができた。多くの子供が初めて取り組む技であったため、技のイメージをもたせることに有効だった。

⑦ 評価カードを電子化する【研究授業(カ)(ク)】

研究授業(カ)では、振り返りカードをタブレット端末で行うことで、学習用具が少なくなり、マットの周りが整然となった。子供はその分集中して運動に取り組んでいた。また、単元の最後に必要なカードをつないで提出させることで、個人の伸びや変容をとらえることが容易になった。

研究授業(ク)では、ロイロノートで評価をしたり振り返りを行ったりした。字を書くことに抵抗感のある子供は、タブレット端末を活用することで、前向きに取り組むことができ、大変有効だった。また、振り返りを端末上で共有し、相互評価できたことも学びの共有に有効だった。

⑧ タブレット端末で教師が動画撮影し、次時の資料にする【研究授業(エ)】

研究授業(エ)では、個々の会話動画を子供のタブレット端末にエアドロップで送った。その後、自分の会話動画を基に友達が一番楽しいことを文章化させた。繰り返し再生できるため、自分がした質問や友達の答えを確認しながら、書くことができた。

(4) 授業での教師の働き掛け

① 実物や模型を使った教材提示【研究授業(ア)】

研究授業(ア)では、教師自作の大きな筆模型や運筆が分かる図を提示して、筆使いの仕方に気付かせた。実物や模型の導入は、子供を大いに引き付けた。

② ペアやグループ活動の導入【研究授業(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)】

多くの授業で、ペアやグループ活動により子供の考えや技能が高まった。短時間であっても、日々の授業で導入していくことが大切である。

③ タブレット端末による動画や写真を補う掲示物や板書【研究授業(エ)(オ)(キ)】

動画は流れていくので、動画で提示されたポイントについて、掲示物や板書で残しておくとその後の学習で活用できる。タブレット端末で提示した写真や図なども同様で、必要に応じて紙媒体にして黒板に提示するといった工夫が見られた。

(5) 外部指導者招聘の全体研修の概要

① 7月6日 早稲田大学教職大学院 教授 田中博之様 御講演 (オンライン)

「指導と評価の一体化を図る学習評価の在り方」と題し、学習評価が子供の学びに活かされなければならないことや、ルーブリックと評価方法の事例等について御指導いただいた。

② 9月7日 研究授業② 1年1組生活科「あさがおとともだち」

指導者 沼垂幼稚園園長 青木 博子 様 (オンライン)

評価規準は国研の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を熟読してつくること、生活科における「主体的に学習に取り組む態度」の評価には「実感や自信」という教科特有の視点があること、子供とループリックを共有するとは子供がその内容を自分事にするということ、子供同士が体験を共有する上でタブレット端末が有効だったこと、ループリックの共有は夏休み前にするのもよかったことについて御指導をいただいた。

③ 11月15日 研究授業⑤ 4年算数「面積 ～算数の刃 面積列車編～」

指導者 新潟市教育委員会学校支援課 総括指導主事 三條 貴之 様

単元を貫くループリックの設定とポイント制，視覚に訴えるループリック表が子供の主体的な学びを促していたこと，子供も授業者もタブレットを効果的に学習に利活用していたこと，全体交流を丁寧にするために2時間に分けて学習することも可能だったことについて御指導をいただいた。

④ 1月11日 早稲田大学教職大学院 教授 田中博之様 御指導（オンライン）

ループリックを子供の目標とするためには，単元の初めより単元の中核となる活動の前ぐらいがよいこと，ループリック表の視覚的な工夫をするとよいこと，子供がループリックを自作することも可能なこと，成長を自覚するために「成長力アンケート」の実施や年間で数回成長を振り返る時間を設けるとよいこと，ループリックは複数の観点で挑戦してほしいこと，思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度のループリックを作成するとよいことについて御指導いただいた。

(6) 先進校への視察，オンライン研修

- ① 12月3日 新潟市立浜浦小学校研究会（オンライン）
- ② 12月16日 新潟市立小針小学校研究会（対面）
- ③ 1月24日 拓け未来の新潟第15回教育フォーラム（オンライン）

7 成果と課題

本時のねらいを達成した児童の割合（研究授業を実施した学級8学級）

100%	80%以上	80%未満
5学級	2学級	1学級

本時のねらいを達成した児童は，7学級で80%以上に達した。80%未満の学級では，本時で「分かる」「できる」の両方をねらったが，ねらいに達しなかった子供は「分かる」にとどまっていた。

ループリック全校児童アンケートの結果（回答者171名）

1（単元の）学習を通して，できるようになったことや分かるようになったことがありましたか。			
あった	少しあった	あまりなかった	なかった
80%（136名）	19%（33名）	1%（2名）	0%（0名）
2 1で○を付けた答えを選んだのはどうしてですか。（複数回答）			
(1) ループリックがあったので，めあてを決めやすかったから。			80%（109名）

(2) ルーブリックを使って振り返りをしたので、次のめあてを決めたり、学習のやり方を考え直したりしやすかったから。	50% (85名)
(3) ルーブリックがあったので、何ができればよいか分かってやる気が出たから。	47% (81名)
(4) ルーブリックがあったので、自己評価や相互評価がしやすかったから。	44% (75名)
(5) タブレット端末を使ったので、振り返りをしやすかったから。	46% (79名)
(6) タブレット端末を使って相互評価することがよかったから。	46% (79名)

項目1「(単元の)学習を通して、できるようになったことや分かるようになったことがありましたか。」の肯定的評価は99%と、高い数値を示している。

項目2の回答には、学級により項目ごとの数値に偏りはあるが、(1)「ルーブリックがあったので、めあてを決めやすかったから」と全校の80%が回答している。(3)「ルーブリックがあったので何ができればよいか分かってやる気がでたから」で子供の肯定的評価は47%であったが、全ての授業者が、子供がめあてをもち意欲的に学習に取り組んだと見取っている。

(1) 成果

以下のことが明らかになった。

- ① ルーブリックが示されると、子供はゴールイメージを明確にもつことができ、意欲的に学習に取り組む。
- ② ルーブリックが示されると、教師のゴールイメージも明確になり、評価がしやすい。
- ③ 単元または小単元を通したルーブリックを作成すると、子供は自分がどのレベルにいるかが明確になり、次の活動のめあてをもちやすくなる。また、成長も実感しやすくなる。単元または小単元のルーブリックを、本時に合わせて具体化したルーブリックを用いる場合もある。教科や学習内容によって選択するとよい。
- ④ 前時までの学習を振り返ったり、資料から考えたりして、ルーブリックを子供と決めるようにすると、より主体的に学ぶようになり、ルーブリックが明確になる。
- ⑤ 子供が学習内容やゴールイメージをある程度もってから、ルーブリックを提示するとより効果がある。
- ⑥ レベル3はA評価、レベル2はB評価。レベル1はC評価になるが、子供の意欲を考慮して、レベル1も肯定的な表現にする方がよい。
- ⑦ タブレット端末を利活用するときは、動画のみ、音声のみなど、学習の場面によって工夫する方が、子供が集中できる。

(2) 課題

- ① 教師と子供や子供間でルーブリックの具体の姿を共有するために、判断基準をどんな文言にしたらよいか。
- ② 本時のねらいに合うようにするために、判断基準をどこに設定し、観点の数をどのようにすればよいか。
- ③ 主体的な学びを促すために、単元や本時のどこでルーブリックを示したらよいか。
- ④ 全校児童アンケート2(2)~(6)について高めるには、どうしたらよいか。
- ⑤ ルーブリックを用いた授業は、他にどのようなものがあるか。